

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書

はじめに

本校は本年度愛知県教育委員会よりあいちラーニング推進事業西三南地区主管校の委嘱を受けました。この事業の目的は次の通りです。「学習指導要領改訂や高大接続改革の趣旨を踏まえた探究的な学習を推進するために、12校の主管校において、『主体的・対話的で深い学びの推進』をテーマとした研究開発を行い、その成果を広く普及・還元する。また、54校の重点校は、主管校の研究成果を踏まえ、自校における『主体的・対話的で深い学』による授業改善に推進する。」

これを受けて、本校がこの一年取り組んできた内容を報告書にまとめました。この取組をホームページに掲載し、多くの方に見ていただくことで、本事業の目的の一つである「研究成果の普及・還元を図る」ことにつながることを願います。

研究テーマ

生徒の有する資質・能力の一層の向上を図る「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善の取組

本年度の研究目標

- (1) 生徒の持つ資質・能力の一層の向上を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の場となる授業の在り方について、全職員が理解を深めるとともに、各教科において授業改善に向けた取組を実践する。
- (2) 授業等におけるICTの効果的な活用方策について研究する。
- (3) 「指導と評価の一体化」を図るPDCAサイクルを活用した授業改善を通して、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の場となる授業を、効果的に実践できるマネジメント力を向上させる。

研究の実施内容

実施月	内 容
7月上旬 ～1月下旬	○教科主任会（随時）で研究計画、実施検討等の話し合い ・事業内容の説明、研究目標の設定、研究の依頼、ふりかえりなど
7月中旬	○第1回授業アンケートの実施
7月13日	○第1回連絡協議会
10月25日	○重点校公開授業視察（愛知県立高浜高等学校）
11月4日	○先進校訪問（山梨県立甲府西高等学校） ・授業の見学、設備や運営に関する情報交換
同日	○重点校公開授業視察（愛知県立安城南高等学校）
11月11日	○公開授業及び研究協議 助言者：総合教育センター研究部教科研究室 内山 真一 室長 伊藤 卓哉 研究指導主事 愛知県立刈谷東高等学校 牧野 昌子 教頭 授業者：井島 基成（国語） 今西 洋介（数学） 飯田 真央（英語）
11月15日	○重点校公開授業視察（愛知県立碧南高等学校）
11月24日	○重点校研究協議参加（愛知県立知立高等学校）
12月7日	○重点校公開授業視察（愛知県立碧南工科高等学校）
12月8日	○職員会議で先進校視察報告
12月中旬	○第2回授業アンケートの実施
1月18日	○講演会 「生徒の有する資質・能力の一層の向上を図る『主体的・対話的で深い学び』のための授業改善の取組 高校生の学力はどうなっているのか？どうしたらいいのか？」 講演者：名古屋経済大学人間生活学部 特任教授 大谷 尚 先生
同日	○第2回連絡協議会（アドバイザー：大谷 尚 先生）
2月9日	○学校関係者評価委員会で成果報告
3月17日	○校内現職研修会で成果報告
3月下旬	○本校ホームページにて取組の概要公開（予定）

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 授業改善に向けた取組

(1) 授業アンケートの実施

ア アンケートの実施方法

(ア) 時期：1学期・2学期の期末考査前後（年2回）

(イ) 実施者：授業を担当する全職員

(ウ) 実施方法：教科担任が、担当する科目から学級を抽出し、授業中に実施する。または、ロイロノートのアンケート機能を利用する。

(エ) アンケートの書式：以下にあるような統一した書式で実施する。

イ アンケート結果の集約と分析

(ア) 各教科担任が任意の様式で実施し、アンケート結果を検証し今後の授業改善に役立てる。

(イ) アンケートを実施した日時、クラス、科目名、評価に対する感想、授業改善のポイントを所定の用紙を利用し教頭に提出する。

(ウ) 報告内容から参考になりそうな有益な情報を抜粋し、参考資料として配布し、成果の共有を図る。

(エ) 報告期限はそれぞれ終業式までとする。

ウ 報告内容のまとめ

・生徒の関心をより高めるために、ICTの活用をしていきたい。（多数）

・参考資料としてパワーポイントのシートを縮小してあらかじめ配布する。

・書くことや話すことを意識したものを入れていきたい。

・バズセッションの回数を増やす。

・授業外での学習に取り組めていない生徒が多かったので、小テストや課題の出し方を工夫する

・グループワークや話し合いの機会を増やす。（多数）

・一人ひとりに目を配ったきめ細かい指導を意識する。（多数）

・生徒の理解度・定着度を確認しながら授業を進める。

・ワーク・プリントを利用する時間、質問と思考の時間のバランスを工夫する。

・演習の時間を考えた授業展開をする。

(2) 本取組の評価と課題

授業アンケートの実施により、教師が生徒の学習の状況や成果を的確にとらえ、授業や指導の改善を図る一助になっている。一回目の結果から、生徒用タブレットが設置されたこの機会に、授業にICTを積極的に活用することで、主体的・対話的で深い学びにどうやって繋げるかという課題が明確になった。その課題を研究授業週間に実施する公開授業の目標として設定することにした。

2 公開授業・研究協議

(1) 日 時：11月11日（金）13:35～15:30

(2) 会 場：本校1年3, 7, 9組（研究授業）

会議室、経営保育室、図書館（研究協議）

(3) 参加者：西三河地区の高等学校から22校49名、本校職員

(4) 助言者：総合教育センター研究部教科研究室 内山 真一 室長

伊藤 卓哉 研究指導主事

愛知県立刈谷東高等学校

牧野 昌子 教頭

(5) 日 程：

13:35～14:25 研究授業 現代の国語（1年3組生徒38名）授業者：井島 基成 教諭

数 学 I（1年9組生徒38名）授業者：今西 洋介 教諭

論理・表現 I（1年7組生徒39名）授業者：飯田 真央 教諭

14:40～15:30 研究協議 指導者による説明とふりかえり、質疑応答、助言者による御指導・御助言

(6) 研究授業・研究協議

ア 内容

現代の国語：『不均等な時間』の内容を踏まえ、前近代と近代の時間世界について具体例を挙げながら二項対立の形で叙述する。生徒用タブレットのロイロノートを使用しながらグループ内で共有し、良いものを選び発表する。

数 学 I：三角形の面積を、三角比を用いて求める。グループごとにタブレットのロイロノートを使用して解答を共有し、より良い解答方法を選び発表する。

論理・表現 I：「Unit 7 How many clothes do you buy?」の内容を踏まえ、ペアワークで実際の会話に近い会話文を作成し、生徒用タブレットのロイロノートを利用することで共有し、添削しながら交換する。

イ まとめと課題

今回の研究授業のテーマは、一学期の授業評価を踏まえて、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践とノウハウの共有とした。授業を行った三人の先生方は、タブレットの「ロイロノート」を活用することで、生徒自身が考え話し合う過程の中で「気づき」を引き出す「主体的・対話的な学び」を実践されていたという評価を研究協議の場でいただいた。事後に提出されたアンケートや協議の場でも、授業の中にロイロノートを取り入れてみたいという意見が数多く寄せられ、知立東の生徒は自校生徒と比べて、タブレットを扱い慣れているという声も多かった。タブレットの導入以後、本校でICTを用いた授業がある程度行われていると言える。しかし、多くの職員がまだ手探りで試行錯誤している状態であるのも事実であり、校内でノウハウをどうやって共有していくか、そのシステムをどうやって構築していくかが課題であることも明らかになった。

3 講演会

- (1) 日 時：1月18日（木）14:00～15:00
- (2) 会 場：本校会議室
- (3) 講 師：名古屋経済大学人間生活学部 特任教授 大谷 尚 先生
- (4) 参加者：三河地区の高等学校から9校9名、本校職員
- (5) 内 容：「生徒の有する資質・能力の一層の向上を図る『主体的・対話的で深い学び』のための授業改善の取組 高校生の学力はどうなっているのか？どうしたらいいのか？」
- (6) 概 要

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための前提として、我が国における現在の高校生の学力はどうなっているかという点について、受験力形成に偏っている現在の学校教育の諸問題を具体的に指摘し、大学教授と名古屋大学付属高等学校の校長として得られた知見を基に、「自分で考える」「他者を想定した対話」の重要性を切り口にして、「どうしたらいいのか」ということを、聴く者自らに投げかけ考えさせるという大変示唆に富んだ内容であった。

さもすると「主体的・対話的で深い学び」や「ICT活用」という言葉が独り歩きしがちであるが、生徒の資質・能力を理解したうえで取り組まなければならないということを強く意識させる内容であった。寄せられた感想にも、「ざっくばらんに話されており共感が持てた。」「知識をつけさせるだけでなく、能力を育てることの重要性は自覚していたので、とても共感できる内容だった。」という肯定的なものが多く寄せられた。

4 成果発表

- (1) 12月8日（木）の職員会議で、先進校視察として11月4日（金）に山梨県立甲府西高校へ視察して得た知見についての報告を行った。当日は、マイクロソフト社の Teams と OneNote を活用した1年生の数学と英語の授業を参観し、教務主任と情報担当の先生方と情報交換を行った。ICTを職員に活用してもらうには、とにかくさわってみる、使ってみるという仕掛けが大切であることや、Teams と OneNote の活用は、管理担当を設定して組織的に運用する方が混乱しない等、本校でICTを活用していくために指針となるような意見を数多くいただき、それを報告書にまとめ報告することで、教職員全体で有益な情報を共有することができた。
- (2) 2月9日（木）の第2回学校評議員会で、あいちラーニング推進事業初年度の実践報告を行った。外部からの視点により初年度の取組を評価していただくことで、反省点や来年度に向けた課題を明確にすることができた。
- (3) 3月17日（金）の職員会議で、あいちラーニング推進事業初年度の実践報告を行う予定である。本事業の研究目標の再確認や来年度に向けた課題を職員全体で共有したい。

5 来年度に向けて

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の場となる授業の在り方について、職員全体の理解をさらに深めていきたい。そのための体制づくりとノウハウの共有方法を研究し、学校全体で授業改善に取り組む意識を高めたい。
- (2) 授業におけるICTの活用をさらに推進していきたい。今年度配備された生徒用タブレットを多くの教職員に活用してもらうことで、授業の中に教師と生徒間の相互やり取りを効率よく効果的に取り入れ、職員の働き方改革を進めるとともに、主体的・対話的に学ぶ生徒を育成していきたい。
- (3) ICTを活用した授業活動の評価の仕方について、「指導と評価の一体化」を図るPDCAサイクルを活用した授業改善の研究成果を基にしながら、教科ごとに確立するようにしたい。